

諸欽
合註

誦諧新式大成

上

牙千九批第



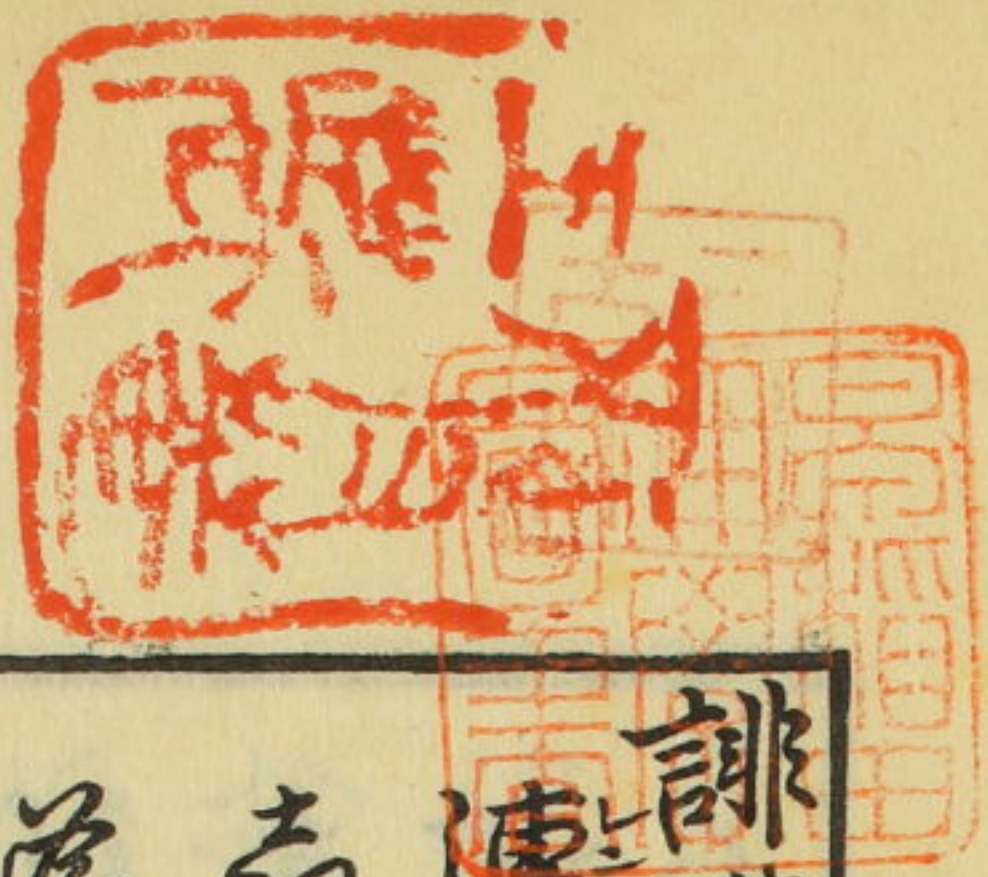
利5

2.2/3

一又



門 5
種 2219
卷 1-2



誹諧新式序

連款^か中^{ちゆう}式^{しき}目^めハ後^ご乃^の定^{ぢやう}め^め並^なく^く終^{しゆう}せ^せりし^しを
あ^あら^らと^と也^や。建^{けん}治^ちの^の式^{しき}目^めハ。總^{そう}念^{ねん}者^{しや}が^が答^{こた}め^めく
為^な相^{さう}言^{ごん}の^の述^{しゆつ}作^{さく}ありし^しと。大^{だい}納^{なつ}之^のお^おる^る後^ごの^の授^{じゆつ}考^{かう}
せ^せを^を多^たの^のひ^ひく^く。始^{はじめ}て^て新^{しん}式^{しき}中^{ちゆう}号^{ごう}一^{いつ}れ^れを^を後^ごし
く^くの^の。彼^か先^{せん}書^{しよ}乃^の舊^{きゆう}式^{しき}目^めに^に對^{たい}し^しの^の名^なあり
け^けし^し。そ^そ後^ごお^おつ^つり^りく^く。應^{おう}安^{あん}よ^よ。普^ぷ光^{くわう}憲^{けん}を^を後^ごを^を
筆^{へつ}削^{せつ}。享^{きやう}清^{せい}一^{いつ}。後^ご書^{しよ}君^{きん}も^も及^{およ}け^け追^お加^かな^なが^がぞ^ぞ。
お^おく^くの^の後^ご勅^{しやく}と^とら^らせ^せ。其^{その}中^{ちゆう}を^をら^らく^くに^に日^に日^にれ
混^{こん}雜^{ざつ}い^いん^んと^とを^をと^と處^{ちよ}う^うら^らぶ^ぶり^りと^とす^す。ア^アラ^ラと^と見^み

明治三十五年四月廿四日
藤年 溥 氏寄贈

第

一

此の毎よ。後をあらうひをいづる。文意は
牡丹花。道憲の友や。合神の今案ふ。今此影
式追加等の世中と定らまはる。とせん。とて
家うた乃授い。松永真徳のよお出てる。式ありて。
多とを彼世への影に振う。影あり。一影よ云。
わく山乃本食と人き。影ふるや。とてう。とて
ひとて。舊影乃式と授い。今古の格と云。
あつめ。影といふは。まをば。こ才よあて。
世よ影。いづる。影を授といふ。その。影。
分毫のまひひよ。馬馬をあらう。とて傷

笑しく。名と潜秘は。終よ。あせ。法と新式を
影よきづりて。此後ま。練ふ。とて。影。好。う。物の。
杖とをねき。な。と。あ。ん。始。杖。乃。送。ま。と。
て。よ。う。と。家。乃。た。の。真。澄。い。く。く。月。く。と。く。
と。や。い。あ。の。と。知。と。噴。毛。吹。狗。子。山。井。等。
此。の。あ。の。文。す。い。れ。の。い。あ。乃。た。と。ま。ら。よ。今。の
俗。と。あ。い。よ。せ。な。や。乃。ん。ご。う。か。う。流。波。流。者。
山。の。あ。れ。も。あ。の。よ。う。か。う。く。あ。れ。ん。と。い。ふ。人。
よ。ま。い。だ。影。の。影。よ。ま。い。ひ。出。あ。る。ま。の。案。を。あ。ら。れ。
ん。と。あ。れ。が。う。の。い。づ。う。よ。も。い。づ。う。け。ら。う。れ。回。と。せ。ま。

とせう程お刊つづけ。板立小切らへていひまはれ
とまへしきしげいらなど。何れもかゝる文書こそ
望く。こゝら函をもさへめぬ。括外の格もこゝ
なうらざるにうひて。今け梅葉とあひまらへ
ふく。是か人真徳の正法眼なる。立圃は骨髄
作者の流るゝあれた目かうける。初のみあをれを
こゝら乃先哲。千歳乃かうよれ。ものめり客
介ととくたまふ。さ致くうけきと推し。影
やいんも又むなをあらわ。やうよものいん
とらへてあされ。梅あをる。いん。作者の根

那ーあや纏りく。世ふ耳はなる。ふよこをめ
ぬ。それさげう古人の言をえられん

御溝水頭白梅園主

鷺水

三

三

誹諧新式目録

能憐之まゝのや書しほのま 全編

一丁々

句と求家ののり拾 兼・立圃伝

六丁々

又家おんは變 古傳授しむのり

十丁々

古家権傳 法家口邊引とのり白

十七丁々

四季の詞 浮に角歌熟字付おし

十七丁々

二月の句 年中のりまをさる物まを

廿丁々

三月の句 日

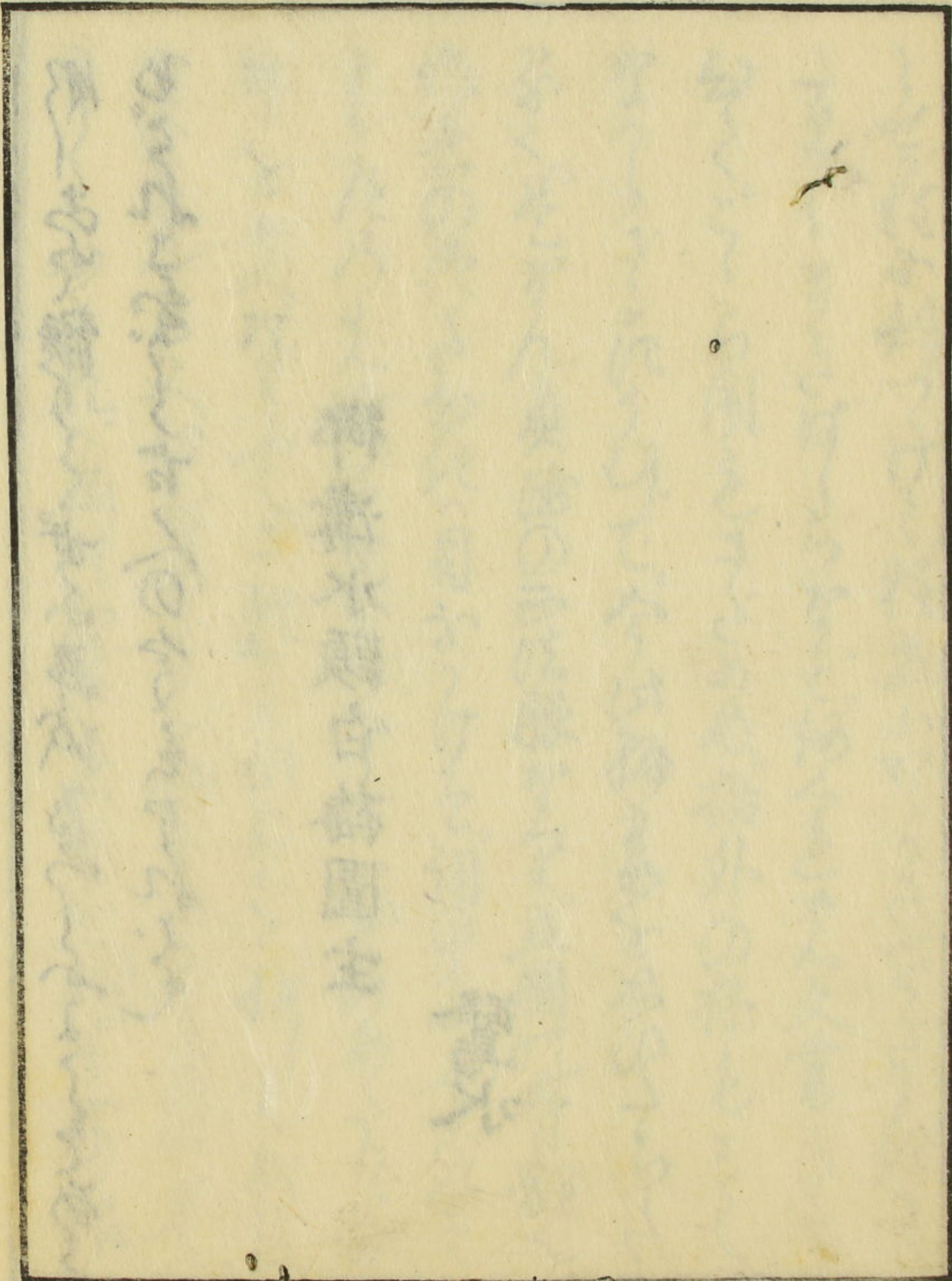
廿七丁々

四月の句 日

卅二丁々

又月の句 日

卅六丁々



六月の朔日

四八テ

七月の朔日

五十三テ

八月の朔日

六十七テ

九月の朔日

八十二テ

十月の朔日

九十七テ

十一月の朔日

百一十二テ

十二月の朔日

百二十七テ

加字乃夜

百三十二テ

神祇の朔日

百四十八テ

意を以て

百六十九テ

迷懐の朔日

百八十五テ

表傷

百九十九テ

非人傷

二百一十三テ

非我々の朔日

二百二十七テ

編小又新ある

二百九十一テ

牙三此は

三百零五テ

句作

三百一十九テ

あてふ

三百三十三テ

かたり

三百四十七テ

いふれ

三百六十一テ

あゝのんぬゝゝ
 去々々ひ相よせ 揚字
 るはの相きん
 にの字れも
 ほ乃字
 くの字
 せの字
 ちの字
 りぬる字
 るとの字

九十二
 九十二
 九十四
 九十分
 九十九
 百一
 百二
 百二
 百一
 百二
 百二

わの字
 か乃字
 よの字
 たの字
 れ乃字
 うの字
 つの字
 ぬの字
 ちの字
 らの字

百八
 百八
 百九
 百十
 百十
 百十
 百十
 百十
 百十
 百十
 百十

ひの字	百十九
うの字	百十九
おの字	百十九
のれ字	百十九
れの字	百十九
くの字	百十九
やの字	百十九
まの字	百十九
けの字	百十九
ふの字	百十九

この字	百十九
はてめの字	百十九
この字	百十九
この字	百十九
ゆの字	百十九
めらの字	百十九
みの字	百十九
この字	百十九
あひらの字	百十九
もの字	百十九

第

三

せの字

百字九

寸乃字

百字八

源和の序持要引白平及付書云

百字七

入款字者異

百字六

源和の小式

百字五

傍紙落款乃亦

百字四

新紙四十紙

百字三

和款乃とんよせ

百字二

心と八十五ヶ條

百字一

凡例

一 書^レと^レ先^ニに^テ誦^ス諸^ノの^ヨ字^キと^イ女^メと^イ世^ヨ小^コ

か^ハり^シゆ^キの^ト終^ラり^ト玉^コ篇^シ和^ワ字^チ彙^チの^ト

端^ハ小^ミ見^ミ初^タと^コ音^ハい^ハぬ^ルと^カ知^ラふ

あり^ア了^カ角^カれ^ト童^モ蒙^ウら^レあ^レん^ノ之^ラホ^ツか^カた^レと^コ

と^ハく^ハ死^ハく^ニ人^ニ篇^ハと^モ用^ヒひ^ト夫^メ名^ウ小^カ智^カ知^カを

の^ニ又^タ多^クし^テゆ^キへ^リ先^セ師^シ真^シ徳^ク立^リ圃^ホ乃^リん^カ眼^シ

と^スり^ス極^ク分^シの^ク後^ケ又^ニと^シ記^スし^テ道^ミ道^チを^オ真^ツ

秘^ヒ河^カ原^ハ行^クと^コ後^カ字^クと^シに^オ倣^ラく^テ言^フ毎^ヘ

小^シと^シく^テ偶^ニと^シ示^スと

序

八

一 編乃又新才三折てふし等の後ハ橋少路友
 傳宗雅紹巴呂海ホ乃更明とふくき能の
 引向小海と志し心
 一 去極の少法ハ及乃先哲跡一志道一也
 一 其の述作ハ何と云ふも物中ハ永貞
 一 其の文のよきもの多し冬考ありて道中
 一 其の書ハ一貫其義
 一 其の筆迹ハ
 一 其の筆迹ハ

補少初学抄 江戸海え 極西氏 嘯立圃 日大令
 日 日 綱目 日 為 森 一 香 仕 屋 一 文 澤 合 掌 一 香
 世 活 煖 一 乳 物 子 一 乳 酒 了 菜 一 圃 乳 母 傳
 母 一 乳 明 鏡 立 圃 俊 一 乳 柳 登 一 圃 一 圃 井
 宝 珠 書 抄 絶 屑 凡 俗 宗 經 一 圃 立 圃 神 中
 記 家 傳 維 多 隨 筆 以 筆 而 成 補 日 一 圃 神 中
 書 古 々 連 珠 困 之 月 休 追 加 抄 本 等 子 の 流
 一 系 層 木 の 一 系 層 木 の 一 系 層 木 の 一 系 層 木 の
 子 九 百 八 十 六 今 新 坊 の 相 七 百 一 十 一 合 々

日さぬへ一交^{シキ}將^シ乃和^シ款^カれ道^{ミチ}い合^アうらうらうと
 あつに連^レ款^カといふものいふより款^カ書^{シヨ}乃^カらうと
 を知^チくこといふ初^{シヨ}ん乃^レ人^ニいひ出^スて一^ニ誹^ヒ諧^ヒの當^{タウ}方^{フシ}
 の世^セ話^ワ一^ニはまもくもせんいひ出^スて一^ニ誹^ヒ諧^ヒの當^{タウ}方^{フシ}
 道^{ミチ}一^ニ入り田^テ野^ノ人^ニを差^サもふんとせし回^キ季^{フシ}は
 乃^レとくさきも一^ニ教^{キョウ}ひ凡^{ボウ}物^{モノ}の底^{ソコ}うたへんとを弁^{ベン}ふ
 然^シより上^ノ古^コの同^{ドウ}俗^{ソク}も知^チりいつとなく人の人^ニを
 ちにいりたりたんいそひて一^ニ非^ヒ道^{ドウ}一^ニ教^{キョウ}ひ
 也^ヤ家^ケ族^{ゾク}乃^レ流^{リウ}者^{シャ}方^フにうひ諧^ヒの字^ジ義^ギとあつて彼^カ
 易^イ行^{キョウ}念^{ネン}仏^{ブツ}の功^ク力^{リキ}いふ一^ニ称^{セウ}よりといふも十^{ジュウ}惡^{アク}

の業^{ゴウ}因^{イン}と消^{シヨウ}とら乃^レ和^シぬあつるうん
 之^ノに字^ジ書^{ショ}に往^{ワウ}く變^{ヘン}なりと訓^{クニ}ありてゆくとる元
 ちりりりやま交^{カウ}句^クよりりりりて眼^{ガン}才^{サイ}とつてりりり
 之^ノを統^{シカ}もあつてのんとかゆれをいふしりあつて之^ノふ
 んり一^ニ流^{リウ}家^ケも之^ノいふかく明^{メイ}ひて一^ニ助^{シヨ}諾^{ダク}の字^ジとたれ
 おむや一^ニ流^{リウ}家^ケの同^{ドウ}俗^{ソク}四字^{シジ}の名称^{メイシヨウ}と婚^{コン}ふりり
 助^{シヨ}諾^{ダク}のんふ比^ヒて一^ニ假^カ名^ナの之^ノを加^カへて一^ニ交^{カウ}へて一^ニ中^{チュウ}や師^シ
 説^{セツ}をいふこと
 連^レハ聯^レなり接^{セツ}あり合^{カウ}て一^ニ家^ケりんふ感^{カン}とる一^ニ交^{カウ}へて
 詞^ジに交^{カウ}へて他^ヒまことこの情^{セイ}乃^レ知^チるにむして一^ニ聯^レ

く章とかなんふ及く吟とたものまきるにと詠と
日月の流るる橋ゆ表ふハ僅緒乃あさうなる
と述といふも裏ふハ急考う迅速の世をありと述と
りとのねに合なり古人の制とるお濁ふくりく
先哲定むと用るのわう詠さうひめてもよくく玩味
とくさうりやうりし

歌ハ柄やうと枝あり 又哥の字を用るもさういふは字に
永言ハ二可長引其声以誦之也 説文ハ歌ハ詠也長引
其声以詠之也 詠ハ一とくもハ人の声とて吟詠
とくさうりやうりし

る一作宛ハけみにあさや古今乃まきるもあはるる
に書とくさうりやうりし

句と求ふ乃用吟

おとと句と設るの用吟のさういふえとせうたもあは
かあふなくハあはるるも又く再叙とくさうりし
はくさうりやうりやうりやうりやうりやうりやうり
の程ハ清とさうり深とさうり入るハ已達の後ハ
深とさうり清とさうり深とさうり入るハ已達の後ハ
乃まきるに終るハ探りゆくは初んの時とあ
くたんとあはるるに終るハ探りゆくは初んの時とあ

さうららるる本のあつて月ハさむくさむく
さうららるるさぬ香とかりく家

此ホにいらさむはつと大くはつらみさうららるるにて
少つてのうらりやをせしちの内尚海へむひや
羽ふさうさハ篇席歌曲流を長せりふさうららるる
乃新とさうららるるを洗はば肉骨の三新らり
又義とさうららるるハ十新二十新を志かく乃階級
あさも人の思ふ思ふ矢とさうららるる接とさうららるる授け交
ゆさなちなるとや史五義のうららるる伽欠羅婆阿の
又つに通ハ神仏の内秘とさうららるるハ尚来乃迷

とを破一上未菩提の因縁やをなれの理ありとや
お家修小冠頭詞眼心乃おひありに修

つ美詳論

つ美とハ月さうららるること賦さうららるること比さうららるること真さうららるること
雅とさうららるる頌とさうららるるなり長頭丸つ美の口修ハ月
ハ歌とさうららるる物とさうららるる梅りさうららるる修ハかし
てつと比ハおとさうららるるさうららるるさうららるる細小さうららるる也
真ハさうららるるの修さうららるるさうららるるさうららるる歌の心とさうららるる
是凡比真とさうららるるに修くのいさか乃遠らるる又賦ハ
さうららるるさうららるるさうららるる修ハさうららるるさうららるる

つる詞を記すは初よりよく字紙の紙にふらふは書種と
 枕と歌のありは一にたたとそや〜周詩の思を
 形と用ゐるのくは此美と新んは是書流のく
 ありと又美のくは二の内に備へ先び〜と書み
 ありと二の内のくは此美と新んは是書流のく
 の新にありは〜一ありは是連歌にもめれ一は百
 に美と書とありは〜一ありは是書流のく
 三十一字なりは〜一ありは是書流のく
 けり〜一ありは是書流のく
 ありは〜一ありは是書流のく

やのくやありは浦の紙に記すは〜と書み
 の哥なり七誠にけりは諸哥乃肝心とめり〜と書み
 心の抄ありは〜一ありは是書流のく
 生法思と求先〜一ありは是書流のく
 家乃他〜一ありは是書流のく
 けり〜一ありは是書流のく
 ありは〜一ありは是書流のく
 家傳に書美の〜と書み
 自余乃詞と支流〜一ありは是書流のく
 後小諾〜一ありは是書流のく

りと面白くいふことを管輅とて傳神のいふ心
フモシロ セツキヤク キヨスチ
 羨小之見今之羨嫌於媚諛取善喜辜以之喻今象
キ イハクミチイマノ ヒラキラウ コヒ ツララフヤリチ モツテコラタラコニアン
 以真との毛詩一毎人ともありあるといふ彼言く
ケウ モウシ カレ
 ことばにあそび書くあふ真とたるといふは家祇の
カレタ ケウ ソウキ
 といふ凡比真の二つは皆そのよ訛とて也凡いあく
フタヒケウ ミチ タク フウ
 知れ真いといふは又云比にあらざる真をかく
ケウ イハクヒ ケウ ケウ
 然るもあらざるの真をかくといふは懐く懐く
トコロ ケウ フシコロ
 といふ心いふといふはなれとあはれはよくいふてあそ
キヲク コヒ ツララウ
 といふといふは嫌於媚諛也人とあふいふといふ
コヒ チキ
 といふに似るといふは人といふは漢の先儒といふ真の
コヒ カニ ゼンシユ ケウ

字と側声とんたあそび之象儒の字声とん起と
チ コシ セイ レヨセン コウ シ ヘリ キヤク キ
 ともあそびたててあそびといふはなれとあそ
ヒラキヤウ トウ 井 シヤク ツ レシカ
 のうたといふ畢竟同とて人教儒於世のいふ
サミタ ニツカセ タニ
 五月雨といふはの松尾谷のいふ
ユレ ナル
 といふといふは是といふはあはれいふはあそ
キ ケウ ソウヤウ セウ
 といふといふは真のいふは七といふは家祇のい
ハルカセ ヤナキ
 といふといふは春月のいふはあそびのいふ
フユカ ユキ ヤナキ タキ
 といふといふは冬川のいふはあそびのいふ
ユレ
 といふといふはあそびのいふはあそびといふといふ
 といふといふはあそびのいふはあそびといふといふ

三越お 十五日と 四葉日

花灯夕 十五日と 粥乃木 日 ちの枝

豆粥いもふ 日 平野の山粥 日 ちの枝

菰氏将軍 日 ちの枝

吉田の儀 日 ちの枝

具足の後より 日 ちの枝

二十日 月 日

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

和景 韶景 春ノ景ナリ 良時 芳時 春ノ時ナリ 淑節 出所同上

麗景 回機活法ニ人静尤知一長 春光 活法ニ世界當花裏 要 類各纂也

淑氣 杜審言詩ニ一催黃鳥暗光轉 類綠 熙春 詩学大成 楚辭ニ青

新ナリト作レリ 共ニ春ヲ云 同日ノ名ノ見ル類 青帝 帝司推

條凡蚤歳謂之春時 青皇 同上活法ニ一 東君 唐子西カ詩

蒼天 春ノ天ナリ 勾芒 春ノ神ナリ 大皞 漢書ニ出タリ 青陽

武帝箕 陽和 白居易詩ニ先遣 花蓋 夏侯湛賦ニ春可 樂子綴雜蒼以

要ニ出タリ 少陽 前律曆志ニ出タリ 其詞ニ一者東方 迎陽 立春ヲ

為蓋 少陽 東勤也陽氣動物於時為春トアリ 燕 歲時記ニ立春ノ日悉ク絲

土牛 同上東坡カ詩ニ土牛明 絲燕 歲時記ニ立春ノ日悉ク絲 日莫辭春トツクンリ

生采 齊人月令ニ九ノ立春ノ日食生 解凍 礼記月 令ニ出 霞

灰 揚景記ニ立春ノ日宜陽金門山ノ竹ヲ取テ管トメ 灰飛 詞同上

瑄通 續漢書自ニ出 新陽 詩学大成 微和 淵明カ詩ニ出 早春ヲ云ナリ

木德 隨ノ青帝歌ニ震官初動 華始 礼樂志ニ出 春生 律曆 志ニ出

歲始 公羊傳ニ出 梅 江梅 趙彦林カ杜詩ノ 註ニ江辺ニアルヲ云

嶺梅 同ク嶺ニアルヲ云 活法ニ天賦幽姿異衆芳 官梅 官人ノ内

杜少陵カ詩ニ東閣官梅動詩典 野梅 野ニアシ 古梅 活法ノ古梅ノ

還如何遜在揚別ナト 賦ニタリ 野梅 野ニアシ 古梅 活法ノ古梅ノ

谷己千年曾見 庭梅 庭ニアルヲ云 溪梅 タニノメ 糝梅 梅ノ色ノウツクシク

蟠梅 活法ノ詩ニ屈榦蟠株倚石根 月明花 苔梅 苔ノ蒸タル 雪

梅 雪ノ中ノ月梅 月夜ニ見ル 風梅 凡ニチル 烟梅 霞カヤ霞ノ内ニアリ

梅 ナリ 梅 ナルソ 風梅 ヲ云也 烟梅 テウスクト見ルヲ云

孤梅一本アル 疎梅愛カシコ花ノソツク 早梅早ハ柳子厚子 红梅カ詩ニ出ハヤサキ

ノ梅ナリ紅ハ玉荆公カ詩ニユウコウ 幽香イヅモモ活法ノ梅ノ所ニアルナリ 清香イヅモモ活法ノ梅ノ所ニアルナリ 新香イヅモモ活法ノ梅ノ所ニアルナリ 暗香イヅモモ活法ノ梅ノ所ニアルナリ

浮香齒香ヨリ愛ニテハ梅ノニホヒヲネナリ但 雪魂惠璉カ詩ニ出タリ 冰魂惠璉カ詩ニ出タリ 疎影林和靖カ詩ニ出タリ 花魁古

同格乃又名 雪魂 冰魂 疎影 花魁

五出活法ニ壽陽公 冰姿日 雪骨東坡カ句ニ羅浮山下梅花 瓊

姿學士高啓 綴珠活法ニ 真珠村玉雪爲骨氷爲魂トナリ 水晶實香 素羅羅

皆治寒 英柳子厚 南枝北枝 東坡カ 冰肌康溪詩話 伯

夷拾林集 鶯詩ニ出 流鶯王恭カ 嬌鶯杜少陵カ 曉鶯活

新鶯李太白カ 鶻詩ニ出 鶻詩ニ出 鶻詩ニ出 鶻詩ニ出

同格のよ名 鶻 鶻 鶻 鶻

金衣公子開元遺 歌梅聖俞 歌韓愈カ

二月の詞 二月の詞 二月の詞 二月の詞

東福寺懺法四月 泉列水河寺の初年二月との日の日活中此

江別妙寺二月 獻生子一月

釋奠二月上丁日先而孔子老子顔回と祭中乃

春月二月

大原野原上申日右妃女

行身二月

二月一夏の園并 韓神祭上音

大原野原上申日右妃女

行身二月

宗神文下三み七百二十二丸の社と多々
 年券と形下三み七百二十二丸の社と多々
 見土月高弁少知る外紀史かやんとの
 冠二亮と知る外紀史かやんとの
 一月比らぬの八つあり 新れ社 二月堂のおこるひ
 遺教院 九月より十月と申す七夜おこる
 佛乃別 二月の月
 新れ社 十五日の夜と申すの夜と申す
 貞福寺 正月の夜と申すの夜と申す
 積塔 十六日先考天皇の皇子の夜と申す
 春の月 二月の月
 社日 二月の月
 田宗寺の夜と申すの夜と申す

浅る系 廿日 天まの聖天 廿二日 貝の凡
 山野の忌日 廿五日 道の寺系 廿八日 季の読経と
 引帯と傍光と重なるのつとまるとは又始と
 の後 是の二月の月と申すの夜と申す
 春の鷹 二月の月
 雛子 二月の月
 團と急多 二月の月
 雲雀 二月の月
 雀の子 二月の月
 雀の子 二月の月

三十一

星鳥尚書二日中星鳥以四陽仲陽同上拾翠類書纂要三月

花之時踏青類書纂要三月民俗携酒出郊游賞スルヲ

芳朱文公カ料峭武帝纂要春乃知速綿京温和春

萌動春分木ノ萌シ和暖ハル日ノアタ舒遲チルル日

鮮明春色ノア嫩緑春色ノア

微暖早春ノタシ淡晴天気ハレ

二月乞詞

己の目れん

乃の援芝子かんしん曲水の宴三月は藤子のそ

桃花の帯三月そのさけ

池花の白三月二月毎は花の白くあや

山斗小秋三月ひり

薬師寺の石清水

寒食ひり

系中ノキ

杏ノカ

春の満カユ

春の鑑日

小弓ひく

蹴鞠の

小弓ひく

楊柳

さくらさくら

和布

柳葉

あめ

こめ

素子

新素摘

母子

桃

ひまわり

ひまわりの花

山梅

花さくら

あざみ

あざみの花

家さくら

やえさくら

あざみ

あざみの花

いせさくら

えんさくら

あざみ

あざみの花

いせさくら

えんさくら

あざみ

あざみの花

いせさくら

えんさくら

あざみ

あざみの花

いせさくら

えんさくら

あざみ

あざみの花

いせさくら

えんさくら

三十一

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

花の宮

三夏以上元帝纂孟夏礼記ニノ一初夏活法ニ出復夏活法ニ出

魏夏活法ニ出長日唐ノ文宗ノ詩ニ人皆若炎熾日曹植大

炎帝魏相傳ニ炎帝秉離赤帝淮南子祝融礼記月令

長羸朱明元帝纂要光明余雅ニ出氣暢正陽西京雜

假宣前律曆煇台楚詞ノ星火書経趙盾左傳ニ出又盾

大火繁欽賦ニ出氣陽管子ニ出黃雀周處風土記ニ出菘

炒韓文ニ出牡丹花名ニ錢思公常曰姚黃羅

記ニ出

黃ノナリ天香李子傑力詩ニ云一蘭麝白居易力臧体元

与力牡丹ノ賦ニ酔態妖姿皮日伏カ庭香章莊カ詩ニ出水

玉東坡カ玉香馬三才カ國香田器之カ仙衣活法圓曇

名ノ用不欠錦苞楊妃西子鴨綠貴品玉膚

雪華江衣金縷五佩風葩露藍絳羅以上

圓機活郭子規格物論杜鵑杜子美カ思飯樂格物論ニ出蜀魄杜荀鶴カ

鴛周怨鳥謝約張華カ蜀魄杜荀鶴カ

杜宇漢陽傳カ黑羽蔡宗堯カ蜀魄杜荀鶴カ

不知歸范文正不知歸去格物論

五月女詞葛蒲少内儀可

五月女詞葛蒲少内儀可

五月女詞葛蒲少内儀可

五月女詞葛蒲少内儀可

五月女詞葛蒲少内儀可

五月女詞葛蒲少内儀可

五月女詞葛蒲少内儀可

五月女詞葛蒲少内儀可

五月女詞葛蒲少内儀可

五月女詞葛蒲少内儀可

五月女詞葛蒲少内儀可

沖鏡 文少 履乱 掛香 伝吉せり
藍州 指 秋乃隣 秋乃隣 秋乃隣
藍州 指 秋乃隣 秋乃隣 秋乃隣

流り用次類の類

季夏 六月ヲ云フ也
長風 凡土記
酷暑 杜子美カ
逐涼 杜子美カ

夏凡也 南風 孔子家語 三伏 三庚 酷暑 逐涼 流

暑 月令 三伏 三庚 酷暑 逐涼 流

納涼 夏ノス、長夏 杜子美カ 詩ニ出 炎雷 活法 流

火 薛道衡詩ニ流 火稍西傾 元陽 火龍 火旗 王載カ 若

蒸炒 韓文 波沸 僧密カ 苦熱 蓮 荷花 拾物 嚴詰

睡蓮 同上 曉ハ起テ旭ニムカヒニ夜ハ 水花 杜甫カ 雙蓮 類聚

二出タリ 但一莖 朱華 曹子建カ 雲段 東坡カ 蓋鏡 白樂

兩花ノモノヲ云 詩ニ出 詩ニ出 詩ニ出 詩ニ出 詩ニ出

秋乃詞と歩

七月 八月 九月 十月 十一月 十二月 立春

詩ニ出 雲錦 丘瓊山カ 山青 曹修古カ 詩 齒齒 介雅ニ出

秋のころ凡 初涼 秋のころ凡 秋のころ凡 秋のころ凡

歩 秋のころ凡 秋のころ凡 秋のころ凡 秋のころ凡

乃 秋のころ凡 秋のころ凡 秋のころ凡 秋のころ凡

格侍 秋のころ凡 秋のころ凡 秋のころ凡 秋のころ凡

秋のころ凡 秋のころ凡 秋のころ凡 秋のころ凡

秋のころ凡 秋のころ凡 秋のころ凡 秋のころ凡

秋のころ凡 秋のころ凡 秋のころ凡 秋のころ凡

秋のころ凡 秋のころ凡 秋のころ凡 秋のころ凡

秋のころ凡 秋のころ凡 秋のころ凡 秋のころ凡

秋のころ凡 秋のころ凡 秋のころ凡 秋のころ凡

秋のころ凡 秋のころ凡 秋のころ凡 秋のころ凡

秋のころ凡 秋のころ凡 秋のころ凡 秋のころ凡

秋のころ凡 秋のころ凡 秋のころ凡 秋のころ凡

片月 古ノ詩ニ多用來ル
四月 出所ヲ記スニ不及
海月 活法ニ海月當山夜
看雲起暮愁アリ

好月 同詩ニ從來好月多雲妬何
淡月 陳去非カ
野月 穀

城カ 山月 除四美カ
秋月 瀧明カ
皓月 本白カ
月乃吳

名水輪 東坡カ
冰鏡 謝莊カ
金波 前漢志ノ註
水

精淮南子 金精 河圖帝覽
玉盤 李太白カ
銀盤 盧

詩ニ出 金丸 蘇子由カ
金環 樂天カ
蟾兔 五經通義ニ

合璧 漢書 玄兔 李周翰
嫦娥 李周翰カ
八拜ト云者ノ

シリリ其ニ因テ各ク月色ハ
皓魄 李朴カ
明蟾 陳藏一カ
山蟾

白シ是故ニ素娥トモ云ト
鴻鴈 詩經疏ニ大曰鴻小曰鴈
來鴈 礼記月令

序ニ出 鴈 鴻鴈 詩經疏ニ大曰鴻小曰鴈
來鴈 礼記月令

雲鴈 范彦龍
一鴈 杜詩
宿鴈 日
落雁 日
沙鴈 杜

カ詩 鳴雁 韓愈カ
孤雁 杜詩
雁行 礼記ニ出タリテノツ

雁字 山谷カ
雁 廣雅
雁 淮南子

接武 羊祐
來賓 月令
雁賓 杜詩
雁叔 王介甫カ

雁塞 梁列記
回雁 郡國志
鴻毛 漢王褒頌
野性 活法

野性去知寒暑
天倫 活法ニ天倫不矣
陳后 班超 日上

九月北朔 御覽 二日

不穩回の案 七月雨田の穂ニキキ
御覽 二日

相撲 八月 泉涌寺舍利堂 八日 重陽宴 九月

のまんこりくくけき痛とわい九陽教のより易をとりあもり
八月九月七九あれいりてをけあとりくくろくあり

流小用詞の秋

季秋月令 菊秋 暮秋 晚秋 深秋

秋末抄秋以上類書纂要 商風 金風 素風

高風 涼風 悲風以上元帝纂要 白雲漢武帝秋風辭

起兮白雲 琪樹許渾詩 紅樹治法 無射月令

潭清烟疑滕王閣序 樹落 荷表蕭愨詩 筇

場詩經 重陽 佳節東坡書 嘉節韓退之詩

菊風土記 桑落杜詩 龍沙 千騎權德輿詩

紫菊 艾菊介雅 黃華月令 蘿菊陶淵明詩

秋菊 楚辭 耳菊深黃 白菊草葉

野菊以上事文類聚 殘菊王荊公詩 日精本草細目

治曆介雅 黃金杜詩 周盈本草 金錢 玉錢

漁隱力黃白菊 月朵陸龜蒙詩 落英楚詞

冬乃詞也

十月 冬神月月令

更衣衣の衣 孟冬旬一日

神一日後神 爐糟一日期楚人 炒炒

秋一日後神 秋一日後神

秋一日後神 秋一日後神

秋一日後神 秋一日後神

行ふ用字記の歌

隆冬

ニ陽

類書纂要ニ出
十二月ライフナリ

大呂令
月

ニ出
夕リ
雉

雞乳

月令

農

暇

顔潜庵カ
詩ニ出

南至

左傳僖
公五年ニ

出
西沈

文選

趙哀

左傳
ニ出

七十一
乃河

七十二
乃河

不侮
見聞
の及ふ

の先草

玄旨法中
昭巴は眼
字を紙は呼
字を紙は呼
字を紙は呼

ホ
乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

